

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(5)-ア	研究開発・交流の基盤づくり	施策	① 大学院大学の周辺環境及び研究開発拠点の整備
			施策の小項目名	○研究機関の誘致、企業集積拠点の整備
主な取組	沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター機器整備事業			
対応する主な課題	②今後、増大が見込まれる研究開発型ベンチャー企業等が入居するインキュベート施設や、国際的な共同研究、産学官による共同研究等を行うための研究施設の充実を図るとともに、研究開発型企業の成長に向けた支援を行う必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターに最先端の研究機器等の整備を行い、バイオ関連企業等の研究開発及び事業化を支援するとともに、県内におけるバイオ関連企業の集積を促進する。						
実施主体	県	バイオセンターにおける研究機器の更新整備		バイオセンターにおける研究機器のニーズ調査と更新整備の検討		
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課	【098-866-2337】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	-						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 機器利用者のニーズ把握及び機器更新の必要性の検証を行った。 OR3年度： 機器利用者のニーズ把握及び機器更新の必要性の検証を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	バイオセンターにおける研究機器のニーズ調査と更新整備の検討				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	100.0%	0	順調	機器利用者のニーズ把握及び更なる必要性の検証を行った。
活動指標名	バイオセンターにおける研究機器の更新整備				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—				R2年度					今年度は、機器利用者のニーズ把握及び機器更新の必要性の検証を行った結果、既存の機器の状態が入居企業の研究開発に支障はないことが把握できた。そのため費用対効果の面から機器の更新整備は当面必要ないと判断した。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 研究機器は高額である為、入居企業やセンターの外部利用者を始めとしたバイオ関連企業のニーズや専門家等の意見を聞きながら、導入の可否を判断する。 						<ul style="list-style-type: none"> ニーズの把握は随時行っているが、研究機器が高額である為、購入については、耐用年数、費用対効果等を考慮しつつ検討する必要がある。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・研究機器自体が高額であり、企業ニーズが多様で変化することから、機器の選定に苦慮している。

○外部環境の変化

・入居者のニーズに加え、今後のニーズの変化も視野に入れインキュベート施設として整備すべき機器について検討する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・バイオベンチャーは、様々な研究を行っており、研究機器についても、その研究内容によって異なってくるため、共用機器として汎用性が高いものについて、入居企業以外の外部利用者からのニーズの把握も行う必要がある。

・入居者アンケートやバイオ関連企業へのヒアリング等を行い、引き続きニーズ把握に努める。

4 取組の改善案 (Action)

・入居企業やセンターの外部利用者を始めとしたバイオ関連企業の研究機器に対するニーズの把握を行う。